

平成二十八年年度

国語

(文学科 日本語日本文学専攻)

9:30
～
11:00

注意事項

- 1 試験開始の合図があるまで、問題冊子、解答用紙に手を触れてはいけません。
- 2 この問題冊子は12ページで、解答用紙は2枚あります。
- 3 試験開始の合図があったら、まずページ数、枚数を確認し(足りない場合は、手を挙げて監督者に知らせること)、全部の解答用紙に受験番号を記入してください。
- 4 試験中に、印刷の不鮮明な箇所やページの脱落などに気づいた場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
- 5 解答は、解答用紙の所定の欄に記入してください。
- 6 この問題冊子にある余白のページは、下書きなどに利用してかまいません。
- 7 試験終了後、問題冊子と受験票は持ち帰ってください。

一

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

【省略】

【省略】

【省略】

(紅野謙介『書物の近代——メディアの文学史』
一九九二年、筑摩書房、76～81ページより作成)

- 注1 『猫』 …… 夏目漱石の小説『吾輩は猫である』を指す。
- 注2 芳賀徹 …… 比較文化、比較文学研究者。
- 注3 金之助 …… 夏目漱石の本名である夏目金之助のこと。
- 注4 内田魯庵 …… 小説家、評論家、翻訳家。
- 注5 題簽 …… 書名を記して和書の表紙に貼る短冊形の紙。
- 注6 折丁のコーデックス形式 …… ページ順になるよう折った紙を冊子状にして作る本の形式。
- 注7 ヴァージニア・ウルフ …… イギリスの小説家、評論家。
- 注8 森田草平 …… 小説家。漱石に師事した。
- 注9 傍註 …… 本文のわきに書き添えた注釈。

問一 ——部①～⑨の片仮名は漢字に、漢字は平仮名に直しなさい。

問二 ——部a「手すさび」b「本意ではない」c「日は浅い」の意味を説明しなさい。

問三 ——部ア「書架図」について、漱石のどのような心情をあらわすものとして筆者はとらえているか、最もふさわしい一文を本文から抜き出しなさい。

問四 ——部イ「本棚は余剰の産物にすぎない」とはどういうことか、わかりやすく説明しなさい。

問五 ——部ウ「書物とは洋書、洋装本を前提としていた」とあるが、「和装本」と「洋装本」の違いを本文の言葉を用いて説明しなさい。

問六 ——部エ「洋書・洋装本の本棚はその関係をむきだしに自他の視線にさらすことになる」とはどういうことか、本文の言葉を用いて一〇〇字以内で説明しなさい。

問七 ――部オ「金之助はここで夏目漱石となり」とはどういうことか、簡潔に説明しなさい。

問八 ――部カ「書齋がもともと医院の診察室であつたらしい」とあるが、(1)「書齋」とはどのような空間か、本文の言葉を用いて説明しなさい。(2)漱石はなぜ「医院の診察室」を「書齋」にしたのか、本文の言葉を用いて五〇字以内で説明しなさい。

問九 ――部キ「子規」は正岡子規を指すが、正岡子規の著した作品を一つ答えなさい。

二

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

雪のいと高うは①あらで、薄らかに降りたるなどは、いとこそA。

また、雪のいと高う降り積もりたる夕暮れより、端近う、同じ心なる人二、三人ばかり、火桶を中にすゑて、②物語などするほどに、暗うなりぬれど、こなたには火もともさぬに、おほかたの雪の光、いと白う、見えたるに、火箸して灰などかきすさみて、あはれなるもをかきも、B言ひ合はせたるこそA。

C宵もや過ぎぬらむと思ふほどに、杳注1の音近うA聞こゆれば、③あやしと見出したるに、時々かやうのをりに、④おぼえなく見ゆる人なりけり。「今日の雪をいかにと思ひやりイきこえながら、何でふ事にさはりて、その所に暮らしつる」など言ふ。「けふ来む注2」などやうの筋をぞ言ふらむかし。昼ありつる事どもなどうちはじめて、よろづの事を言ふ。円座ばかりさし出でたれど、片つ方の足は下ながらあるに、鐘の音なども聞こゆるまで、内にも外にも注3この言ふ事は飽かずおぼゆる。明け暗れ注4のほどに、帰るとて、「雪なにの山に満てり注5」と誦したるは、いとをかきものなり。女の限りしては、Dさもえ居明かさざらましを、ただなるよりはをかしう、好きたるありさまなど言ひ合はせたり。

(『枕草子』「雪のいと高うはあらで」より)

注1 杳 …… 履き物。

注2 けふ来む …… 平兼盛の「山里は雪降り積みて道もなしけふ来む人をあはれとは見む」という和歌を引用したもの。

注3 内にも外にも …… 部屋の御簾の内でも室外でも。

注4 明け暗れ …… 夜明け前の薄暗い状態。

注5 雪なにの山に満てり …… 『和漢朗詠集』にも載る「暁、梁王の苑に入れば、雪、群山に満てり」という漢詩文の一節。漢語「群山」を「なにの山」とぼかして書いたもの。当時、漢詩文を吟詠するのは男性のみ。

問一 — 部①〜④の語の意味を書きなさい。

問二 — 部A「聞こゆれ」とイ「きこえ」について文法的に説明しなさい。

問三 — Aに形容詞「をかし」を適切に活用させて入れなさい。二カ所とも同じ活用形が入ります。

問四 — 部B「言ひ合はせたる」のは誰か、本文中から抜き出しなさい。

問五 — 部C「宵もや過ぎぬらむ」を現代日本語に訳しなさい。

問六 — 部D「さもえ居明かさざらましを」を、「さも」の内容が具体的にわかるように現

代日本語に訳しなさい。



次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

宋人有為其君以象為楮葉者、三年而成。豐殺
 荃柯、毫芒繁沢、乱之楮葉之中、而不可別也。此
 人遂以功食祿於宋邦。列子聞之曰、「使天地三年
 而成一葉、則物之有葉者寡矣。」故不乘天地
 之資、而載一人之身、不隨道理之数、而学一人
 之智、此皆一葉之行也。

〔韓非子〕より

注 宋 …… 戦国時代の国名。

象 …… 象牙。工芸品を作るときに材料。

楮 …… こうぞ。クワ科の落葉低木。

豐殺荃柯、毫芒繁沢 …… 葉の形、荃・枝のつき具合、葉の表面にある毛、色つや
 など、すべてが精巧なこと。

邦 …… 国。

列子 …… 列禦寇のこと。戦国時代の思想家。

道理之数 …… 自然の道理の決まり。

問一 部「遂」「使」の送り仮名を含めた読みをそれぞれ記しなさい（現代仮名遣いでもよい）。

問二 部Aは「宋人に其の君の為に象を以て楮葉を為る者有り」と書き下します。これに従って、解答用紙の原文に返り点を付けなさい（送り仮名は不要）。

問三 部Bを現代日本語に訳しなさい。このとき、「乱之」の「之」が指す内容を具体的に訳すこと。

問四 部Cの「功」の具体的内容を簡潔にまとめなさい。

問五 部Dでは「天地」と「一人」、「道理」と「一人」のように、「天地・道理」と「一人」

が対比されています。この二者がどのようなものと考えられているかを、それぞれわかりやすく説明しなさい。

